

第2次
佐呂間町子どもの読書活動推進計画
アンケート調査考察

佐呂間町教育委員会

(佐呂間町子どもの読書活動推進計画策定委員会)

佐呂間町の子どもの読書活動に関するアンケート調査の考察

■調査概要

(1) 調査目的

佐呂間町内の子どもたちの読書についての実態を把握するため

(2) 調査対象

①佐呂間保育所・子育て支援センターの児童の保護者	97人
佐保 67人 若保 12人 浜保 8人	
支援セ 10人	
②町内の小・中・高等学校の児童の保護者	421人
佐小 171人 若小 44人 浜小 16人	
佐中 117人 佐高 73人	
③小学校低学年（1～3年生）児童	108人
佐小 84人 若小 17人 浜小 7人	
④小学校高学年（4～6年生）児童	123人
佐小 87人 若小 27人 浜小 9人	
⑤佐呂間中学校の生徒	117人
⑥佐呂間高等学校の生徒	73人
保護者（①～②）合計	518人
児童・生徒（③～⑥）合計	421人

(3) 回答方法

アンケート用紙に記入していただき、回収する
保護者の元に複数枚届いた場合は、1枚のみ答えていただく

(4) 集計方法

回収したアンケート用紙を元に、事務局が集計する

(5) 回収数

①佐呂間保育所・子育て支援センターの児童の保護者	66人
②町内の小・中・高等学校の児童の保護者	153人
③小学校低学年（1～3年生）児童	88人
④小学校高学年（4～6年生）児童	81人
⑤佐呂間中学校の生徒	112人
⑥佐呂間高等学校の生徒	71人

■アンケート結果

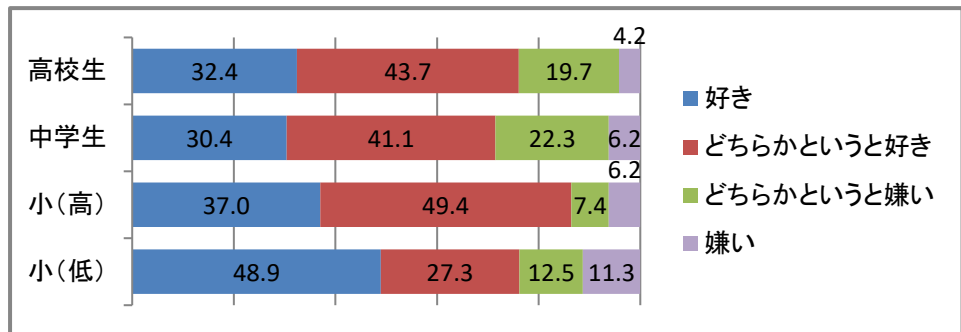
1、あなたは、本を読むことは好きですか。（全員） （保護者には、保護者から見た子どもの読書への設問）

「好き」「どちらかという好き」と答えた割合が、小学校の低学年76.2%、高学年86.4%で前回調査と同様に小学校児童が高くなっており、また、乳幼児も98.5%で前回に引き続き好ましい状況となっています。

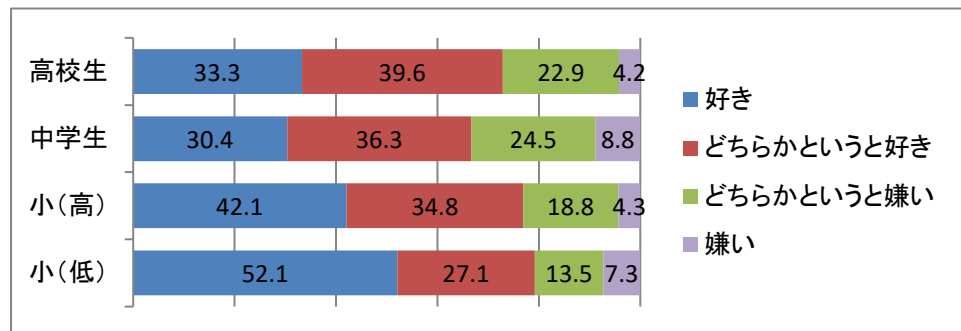
中学生・高校生においても「好き」「どちらかという好き」の割合が前回調査より高くなり（それぞれ71.5%と76.1%）、年齢が高くなるほど読書への興味が減る傾向が前回調査時よりも改善されている結果となりました。

児童・生徒

今回(令和元年)

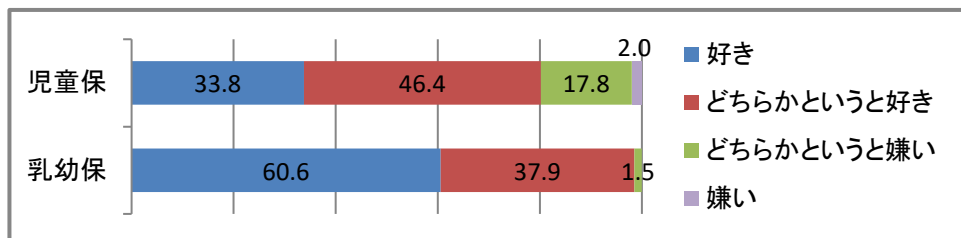


前回(平成26年)

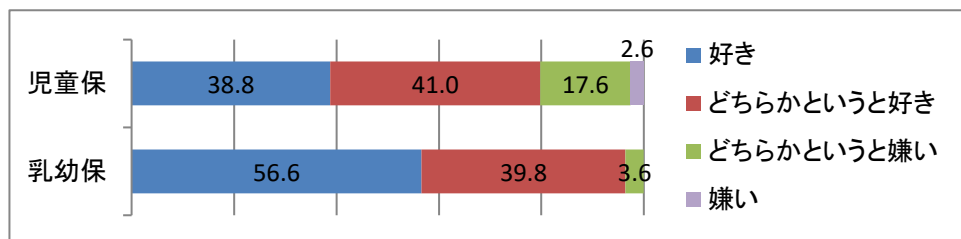


保護者

今回(令和元年)



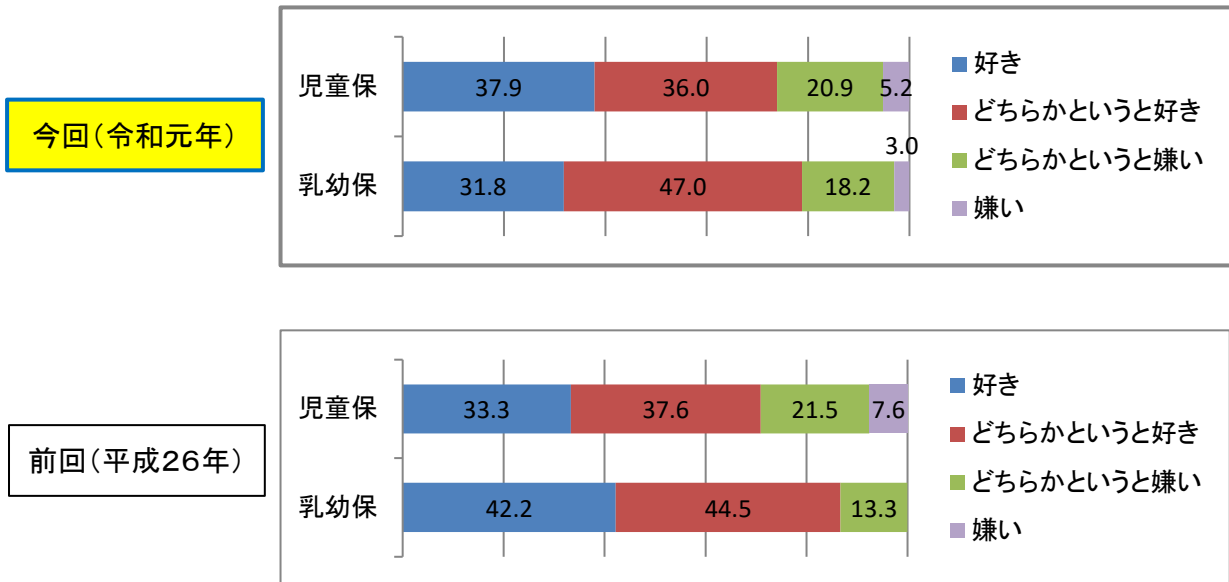
前回(平成26年)



※グラフ内の表記に略称を使用しています。
 小学校低学年……小（低） 小学校高学年……小（高）
 児童生徒保護者……児童保 乳幼児保護者……乳幼保

2、ご記入者（あなた）自身は読書は好きですか。（乳幼保・児童保）

「好き」「どちらかという好き」と答えた割合が、児童保護者で73.9%と前回調査時の70.9%より3.0ポイント増えているのに対し、乳幼児保護者では78.8%と前回調査時の86.7%より7.9ポイント減っています。また、設問1の「あなたは、本を読むことは好きですか。」の設問結果と比較すると、読書が好きな保護者の割合が、子どもの世代よりも前回調査同様にやや低くなっています。

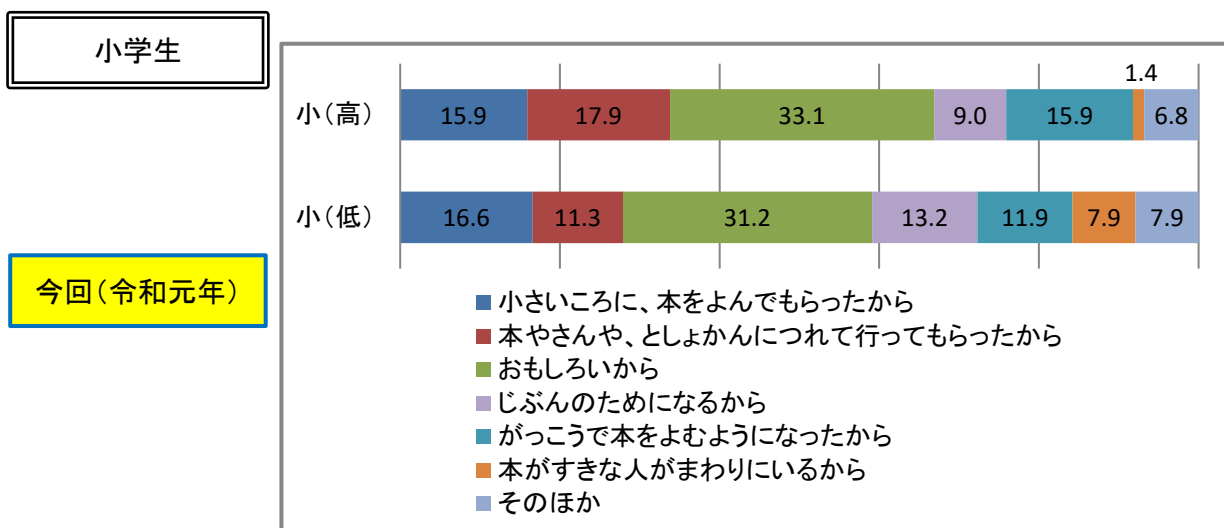


3、問1で1（すき）、2（どちらかというと すき）とこたえた人におききします。
本がすきなのは、どうしてですか。（小(低)・小(高)・中学生・高校生)

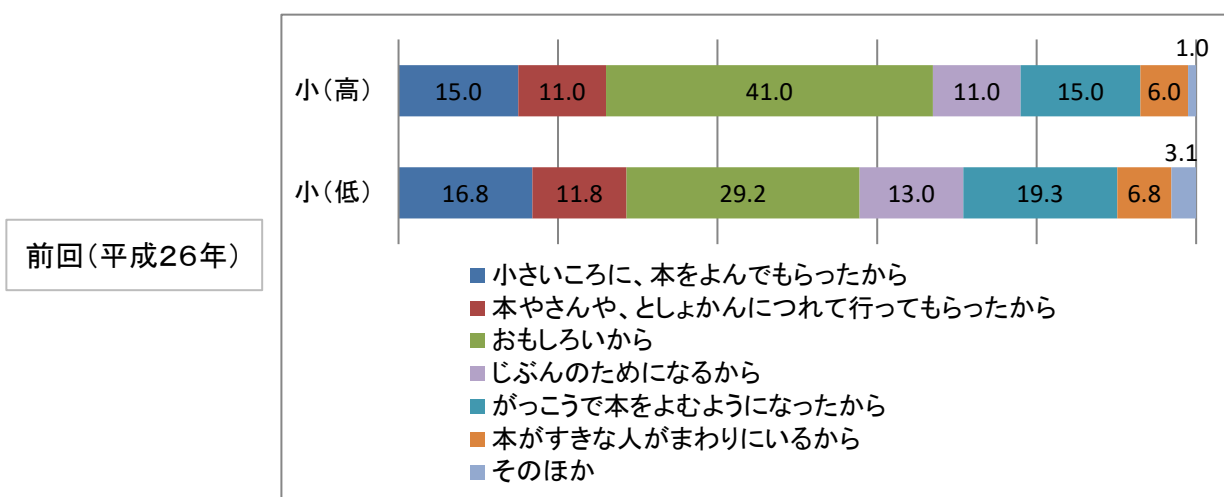
小学生から高校生まで、最も多く選ばれた選択肢は「おもしろいから」であり、また学年が上がるにつれてその比率が高くなり、本そのものの魅力を理解していることがわかります。

次に選ばれた選択肢は、小学校低学年では「小さい頃に本を読んでもらったから」、高学年では「本屋さんや図書館に連れて行ってもらったから」であり、児童の成長に応じた読書の習慣づけが、児童の自主性によるものへと比率が高くなっていることが伺えます。

中学・高校では「自分のためになるから」の比率が若干増えていて、学年が上がるごとに、必要に応じて自主的に読書を行う姿勢が習慣づいていることがわかります。

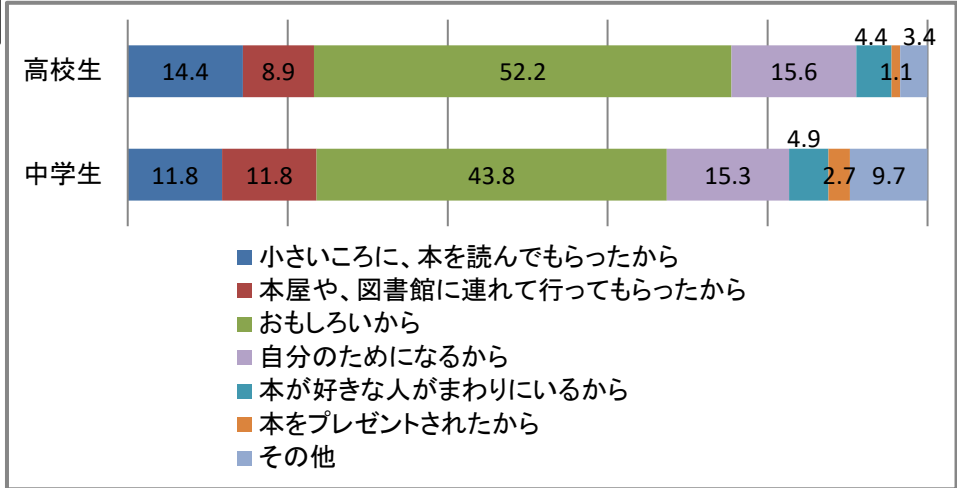


【「そのほか」内容（一部）】 ・おうちでほんをよむようになったから
・あたまがよくなるから ・ともだちとみておもしろかったから
・小さいころから一人でよんでいるから
・お母さんに買ってもらった本がきにいったから



中学生・高校生

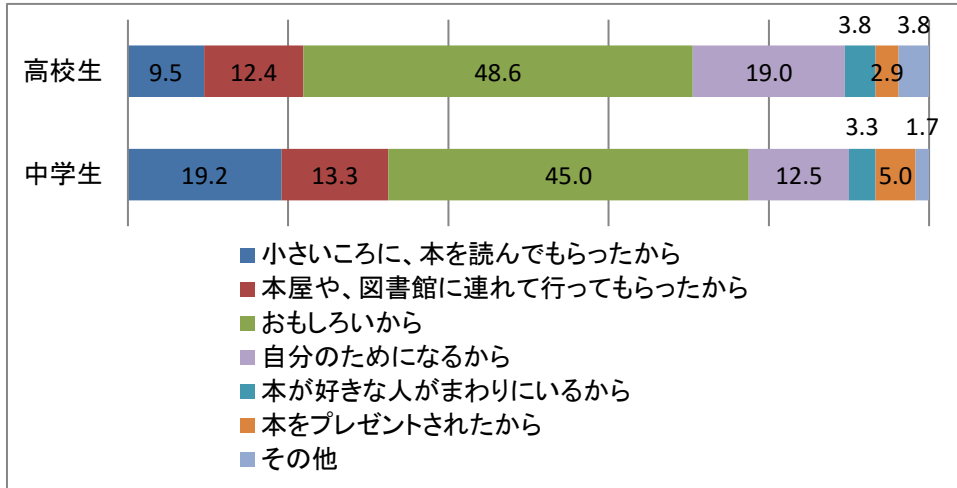
今回(令和元年)



【「その他」内容(一部)】

- ・表紙がかわいいがらだから
- ・本をおすすめされたから
- ・好きなアニメなどの原作などを読むから
- ・他の人といっしょに読むのたのしいから
- ・すすめられてから

前回(平成26年)

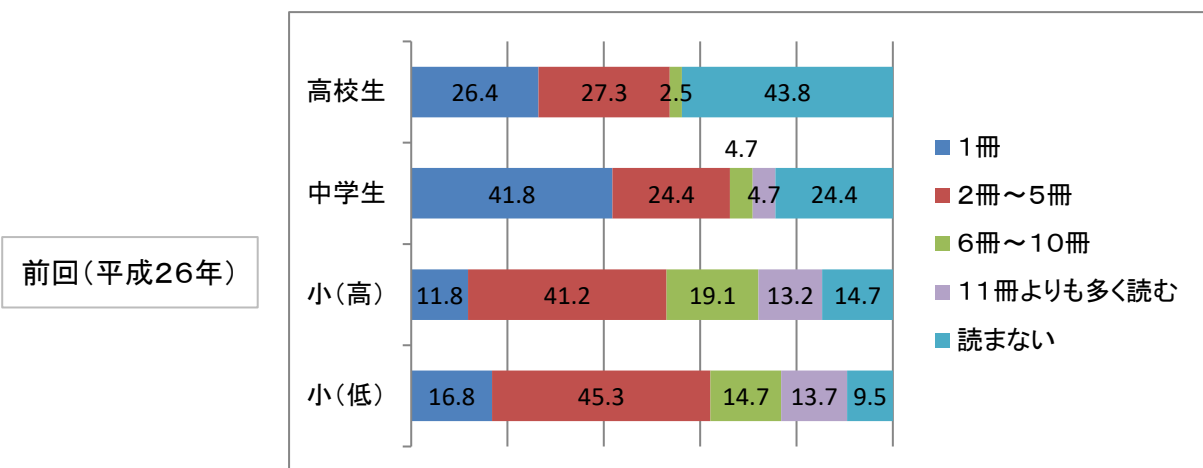
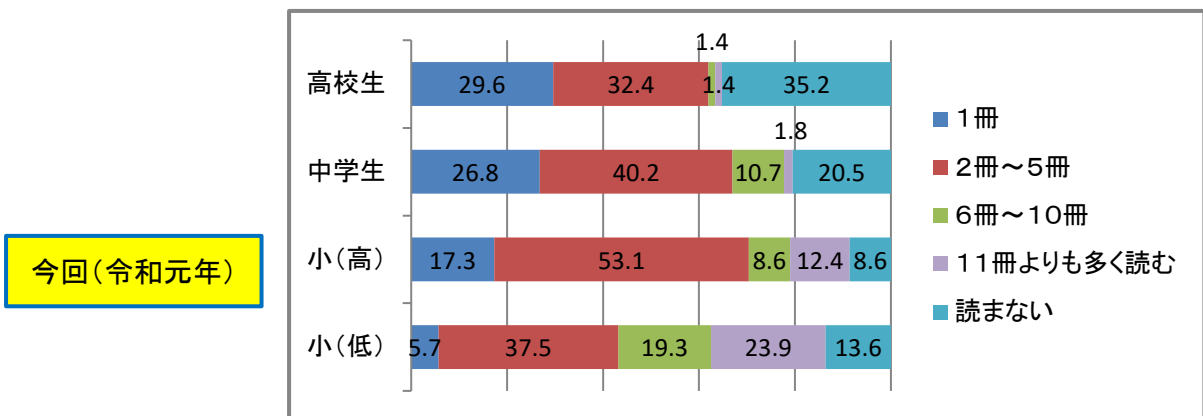


4、あなたは、1か月にどれくらい本を読みますか。(小(低)・小(高)・中学生・高校生)

月に1冊以上読書をする子どもの割合が、小学校高学年は91.4%で前回調査時の85.3%と比較し6.1ポイント増加し、中学生では79.5%と前回75.6%で3.9ポイント増加、高校生では64.8%と前回56.2%で8.6ポイント増加しています。全体的には、学年が上がるにつれ読書量が減る傾向が前回調査時と比べてゆるやかになっています。

小学校低学年では6冊以上読む子どもの割合が43.2%で、前回調査時の28.4%と比較し14.8ポイント増えていますが、一方で1冊も読まない子どもの割合が今回13.6%で前回調査時の9.5%よりも4.1ポイント増えており、多く読む子どもとそうでない子どもとの差が大きくなっていることがわかります。

小学校高学年では6冊以上読む子どもの割合が21.0%で、前回調査時の32.3%と比較し11.3ポイント減っています。全体的には、本を読む子どもの割合は増えていますが、多く読み込む子どもの割合は減っています。



5、〇冊読むと答えた人にお聞きします。どんな本を読みますか。

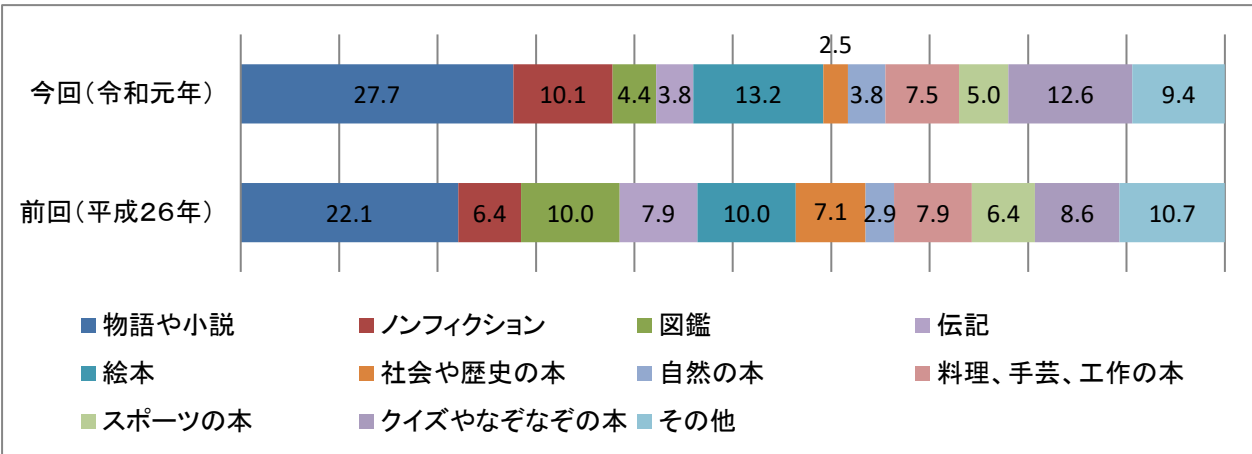
また、最近読んでおもしろかった本、楽しかった本があれば、本の題名を教えてください。（小(高)・中学生・高校生）

全学年を通して「物語や小説（小説・詩）」が人気で、学年が上がるごとにその比率が高く占められています。前回調査時と比べて、小学生では物語や小説の比率が増えています。中学生と高校生では若干減っており、より多様な本が読まれる傾向にあります。

小学生では「怖いストーリー」「本当にあった怖い話」などの怖い話が人気となっています。また、「ひみつシリーズ」や「ジャングルのサバイバル」など漫画形式で知識を深める本が読まれています。

中学生、高校生では、古典文学をはじめとして、一般向けの小説、ライトノベル、映画やドラマの原作小説や漫画の他、知識の習得や進学のために役立つ本が読まれています。

小学校高学年



【本の題名など（抜粋）】

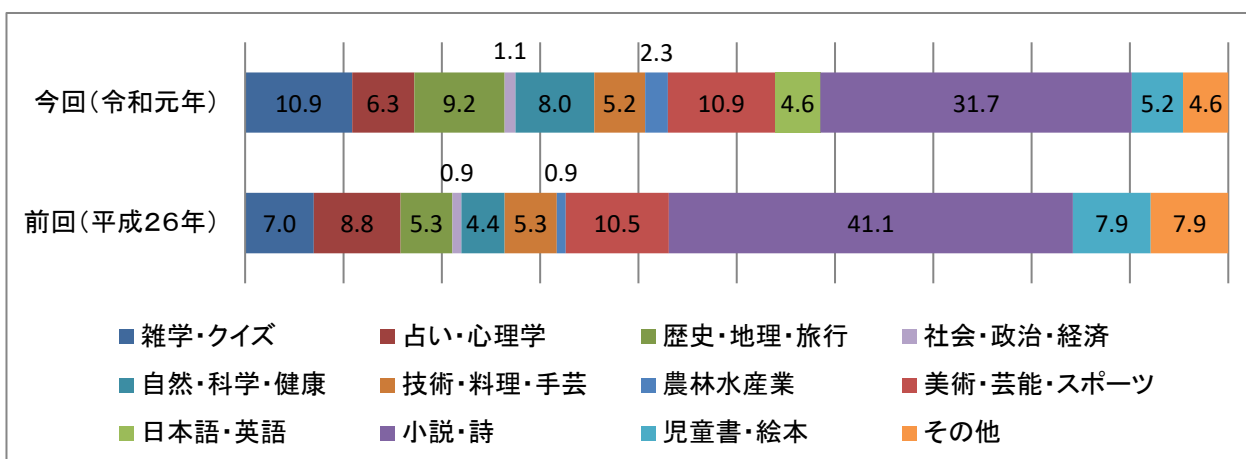
<読み物・小説>

- ・あまからすっぱい物語 ・グレッグのダメ日記（横書きの本が好き）
- ・オレさすらいの転校生 ・水がめ座の少女アレーア、神達に拾われた男
- ・こわいストーリー ・はりねずみのルーチカ ・5分後に意外なけつまつ
- ・「キミといつか」という小説 ・ぐるりと ・子ぎつねヘレンがのこしたのもの
- ・ネコの家庭教師、カレーライスはこわいぞ、本当にあったこわい話、ルルとララシリーズ

<漫画・その他>

- ・ゴールデンカムイ、アイヌの本 ・まんが、ふろくのついているまんが（コロコロ）
- ・コナンの生き物や植物の話 ・すみっこぐらし、しずくちゃんなど ・もうぬげない
- ・耳をすませば（マンガ） ・～のひみつシリーズ ・マンガでわかるよのなかのルール
- ・3つのざいりょうでスイスイツ、4年生なぞなぞ ・ジャングルのサバイバル
- ・七つの大罪 ・コクリコ坂から ・アニメ系 ・手芸の本、本当にあったこわい話
- ・おりがみの本、ワンピース、犬と私の10の約そく、はたらく細ぼう
- ・トリックアート、君たちはどう生きるか ・こんちゅうとかポケモン図かん。
- ・こいのマンガ フリガナつきの！ ・心理テスト ・しんげきのきよじん

中学生



【本の題名など（抜粋）】

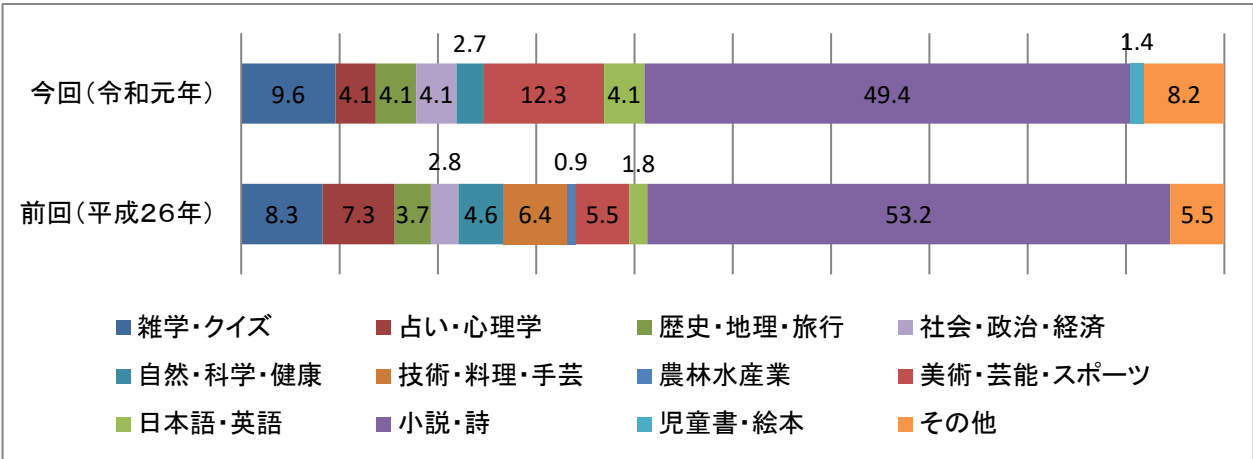
<読み物・小説>

- ・カラダ探し、ダルマさんがコロシタ ・人間失格、桜桃 ・本屋さんのダイアナ
- ・Re：ゼロから始める異世界生活 ・文豪ストレイドックス
- ・恋空 ・下町ロケット ・君の隣臓をたべたい、ひまわりの咲かない夏
- ・コンフィデンスマンJP ・ぼくは満員電車で原爆を浴びた
- ・時間割のむこうがわ ・コーヒープリンス、ペット2 ・青空のむこう
- ・西遊記、鹿の王、三国志 ・告白予行練習、ヤキモチの答え
- ・パラレルワールド・ラブストーリー ・何者、もういちど生まれる
- ・世にも奇妙な物語、ミステリークロック、もういちど生まれる、英国庭園の謎

<漫画・その他>

- ・週刊ベースボール ・ブラックジャック、鉄腕アトム ・ホルスタインマガジン
- ・スラムダンク、ナルト、キャプテン翼 ・問題な日本語
- ・戦国史、敬語の本、野球（打撃）（守備） ・私は私のままで生きることにした

高校生



【本の題名など（抜粋）】

<読み物・小説>

- ・ G J 部 ・ 晩年、道化の華 ・ 生きてさえいれば ・ 賢者の孫
- ・ とある魔術の禁書目録 ・ ライトノベル ・ この冬いなくなる君へ
- ・ 終末なにしていますか？忙しいですか？救ってもらっていいですか？
- ・ 乃木坂が好きだから高山一実さんの『トラペジウム』
- ・ 盲目的な恋と友情 ・ 君は月夜に光輝く

<その他>

- ・ 東京芸大の本 ・ Seventeen、雑誌
- ・ 品が伝わるオトナの言い方が身につく本

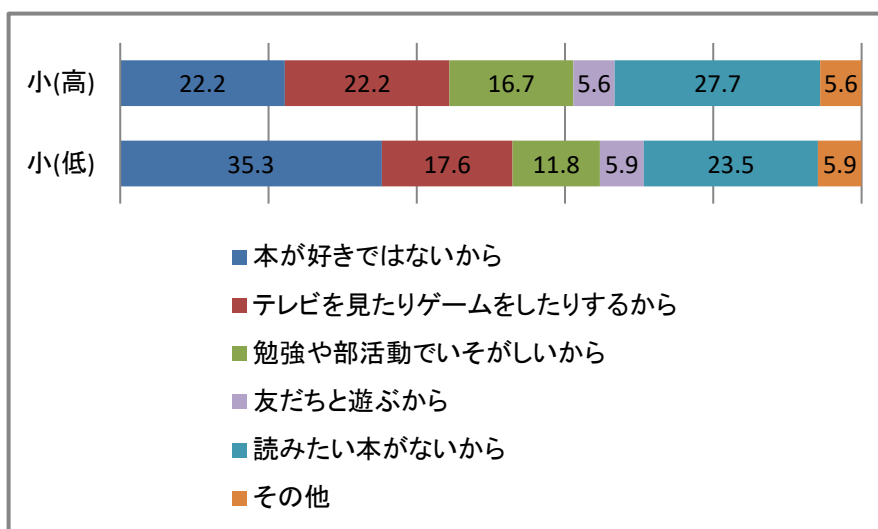
6、読まないと答えた人にお聞きします。本を読まなかったのは、どうしてですか。
(小(低)・小(高)・中学生・高校生)

小学校低学年で最も多かったのは「本が好きではない」の35.3%で、前回調査時の8.0%から27.3ポイント増加しています。また、小学校高学年では「読みたい本がないから」が27.7%と、前回調査時の16.7%から11.0ポイント増加しています。小学生が興味を持てるように様々な本と出会える環境づくりが必要です。

中学生と高校生では前回調査時と比べて、「勉強や部活動でいそがしいから」が減少し、代わりに「テレビを見たりゲームをしたりするから」が増えています。余暇の過ごし方の選択肢として、読書を選ぶ人が減っていることがわかります。

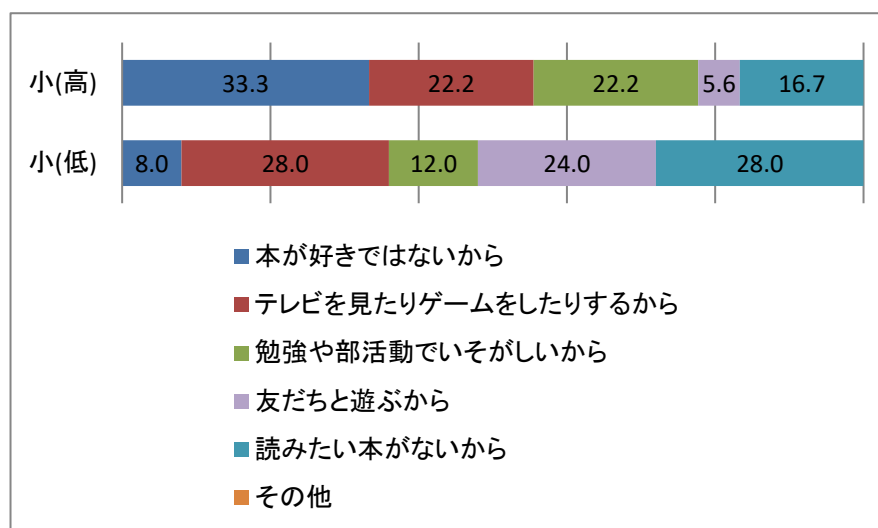
小学生

今回(令和元年)



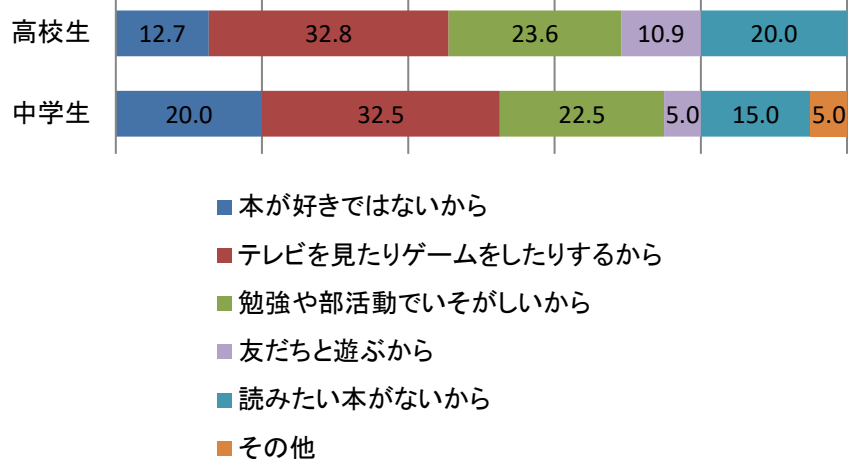
【「その他」内容】
 <小学校低学年> ・家でよむけど、かりにいけないから
 <小学校高学年> ・読むのがにがてだから。

前回(平成26年)



中学生・高校生

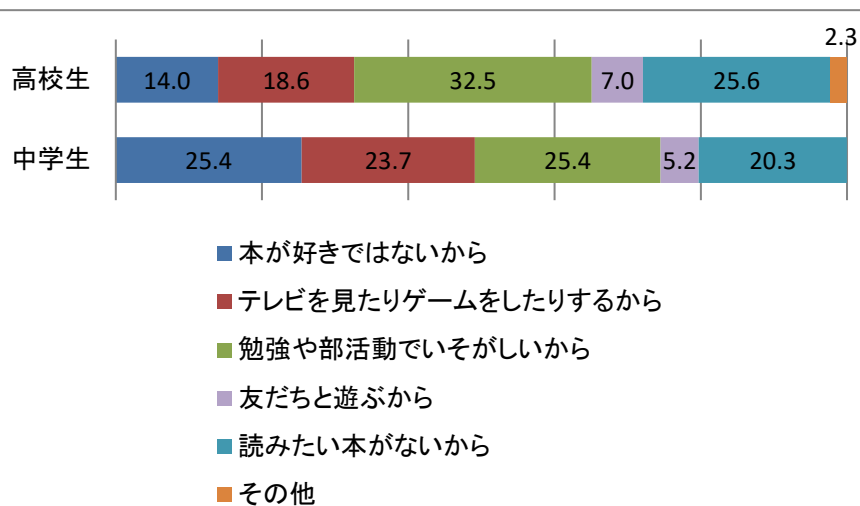
今回(令和元年)



【「その他」内容】

<中学生> ・ねむくなるから ・よみにくいから

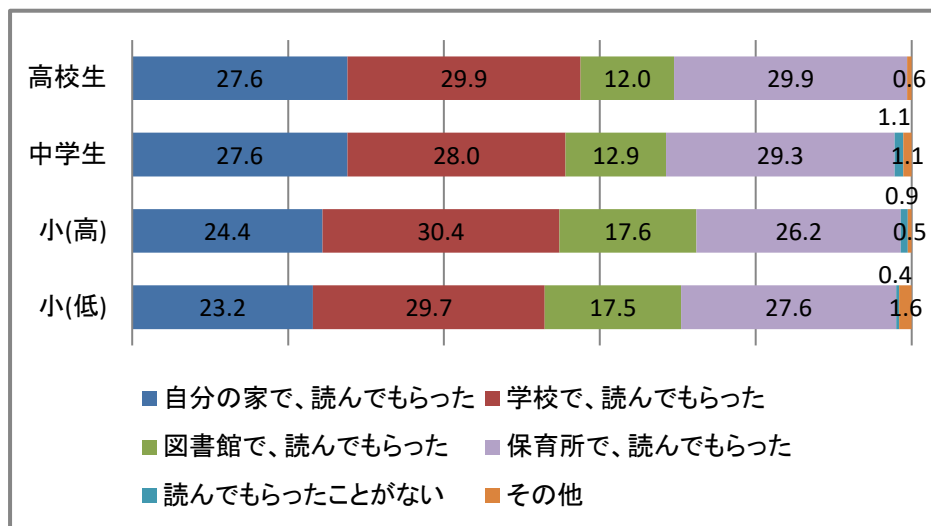
前回(平成26年)



7、あなたは、本を読んでもらったことがありますか。(小(低)・小(高)・中学生・高校生)

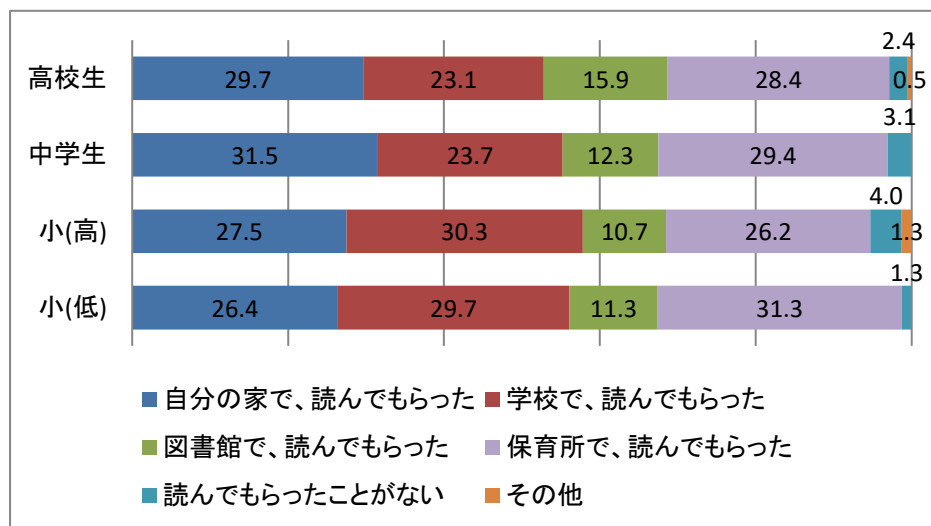
前回調査時と同様に、ほぼ全員が本を読んでもらった経験があると回答しています。全ての学年で、前回調査時よりも「自分の家で読んでもらった」の回答比率が若干減っています。保育所や学校での読み聞かせなど、家庭以外での読み聞かせが今後も重要な役割を担っていくと思われれます。

今回(令和元年)



【「その他」内容(一部)】
 <小学校低学年> ・ともだちのおうちでともだちによんでもらった
 <小学校高学年> ・祖母に読んでもらった
 <中学生> ・ようちえんでよんでもらった
 <高校生> ・わからない

前回(平成26年)

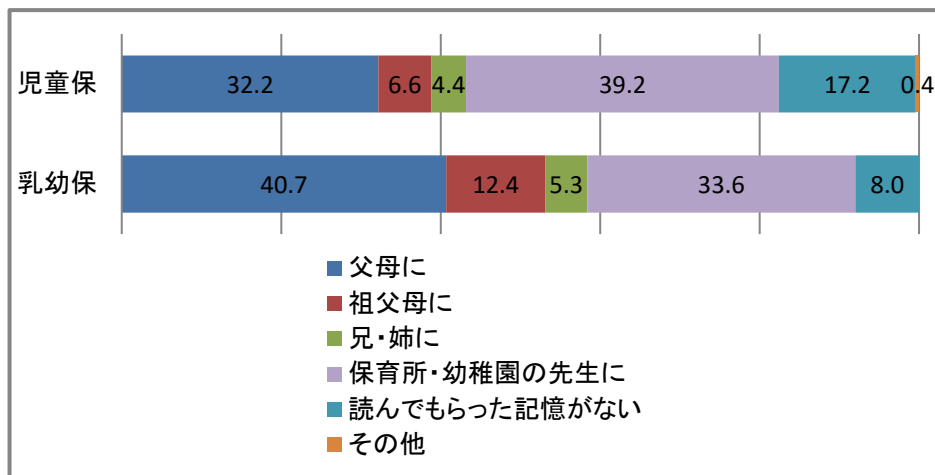


8、ご記入者（あなた）は幼児期に本を読んでもらったことはありますか。（乳幼保、児童保）

誰に読んでもらったかの回答では、乳幼児保護者では「父母」に次いで「保育所・幼稚園の先生」、児童生徒保護者では「保育所・幼稚園の先生」に次いで「父母」に読んでもらったとする回答が多くなっています。

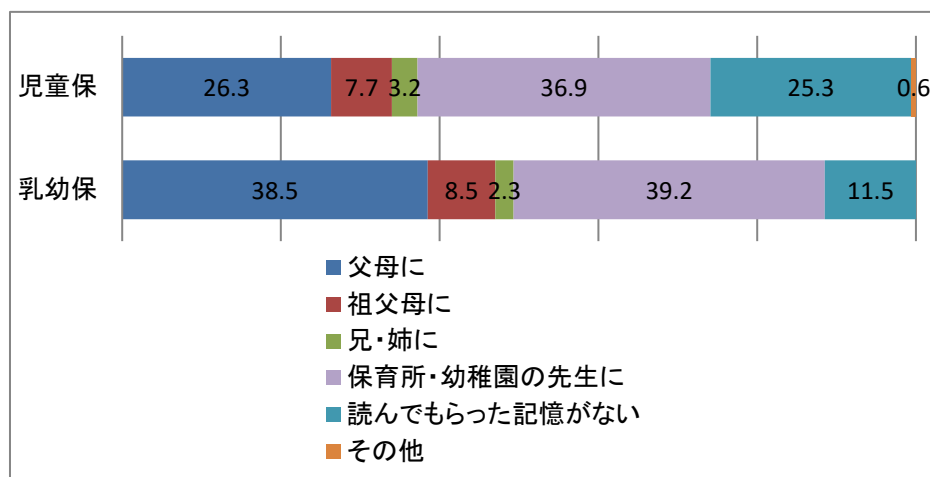
前回調査時と比べると、乳幼児保護者と児童生徒保護者のいずれにおいても「読んでもらった記憶がない」の回答率が若干減少しています。

今回（令和元年）



【「その他」内容（一部）】
 <児童生徒保護者> ・叔母

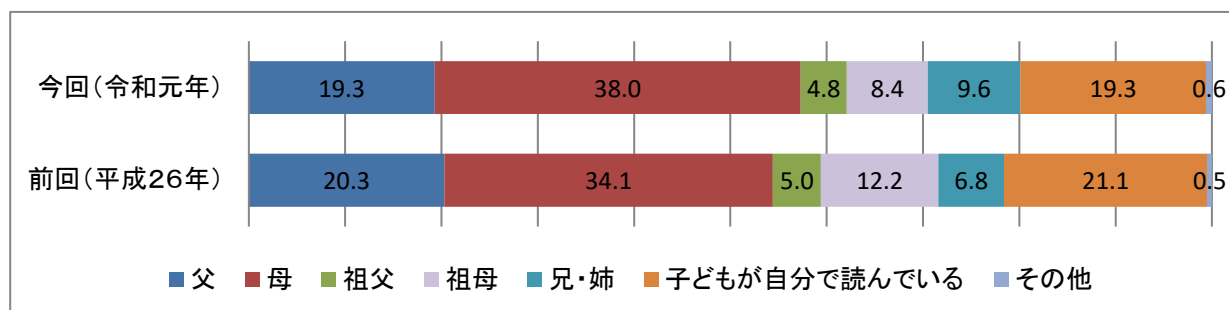
前回（平成26年）



9、ご家庭で、どなたがお子様に本を読んであげていますか。(乳幼保)

最も多い回答は「母」(38.0%)、次いで「父」(19.3%)であり、双方あわせて57.3%と半数を占めています。

特に「母」の回答率は前回調査時の34.1%と比べ3.9ポイント増加しており、母親による読み聞かせが「父」のほぼ倍の比率となっています。

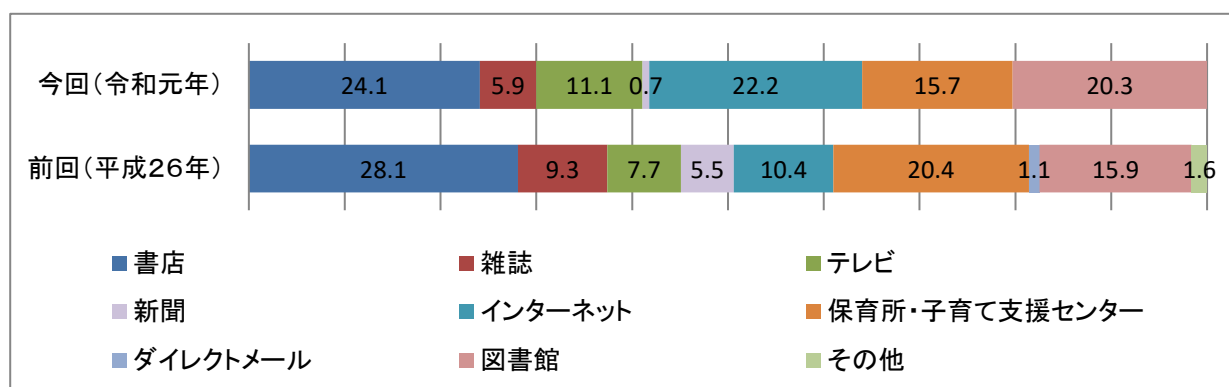


【「その他」内容(一部)】
 <乳幼児保護者> ・先生

10、子ども向けの本についての情報は、どこで得ていますか。(乳幼保)

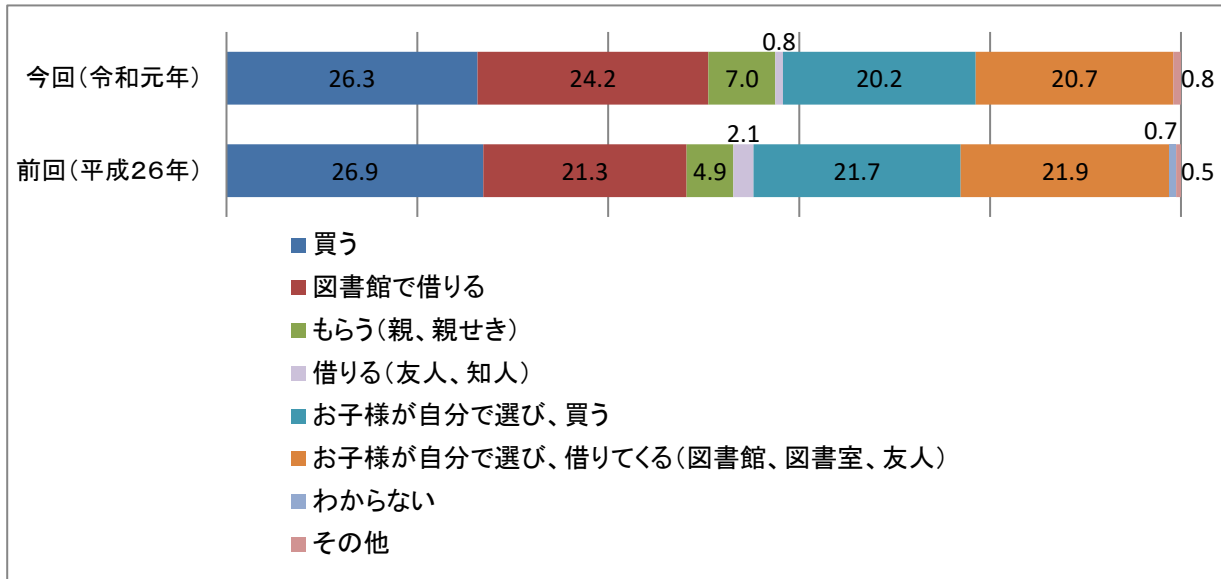
情報を得る手段として、「書店」(24.1%)、「インターネット」(22.2%)、「図書館」(20.3%)、「保育所・子育て支援センター」(15.7%)が多く選ばれています。

PCやスマートフォンで最新の情報を手軽に得られるためか、「インターネット」の回答率が前回調査時の10.4%と比べて22.2%と大幅に増えています。



1 1、お子様がお読みになる本はどのように入手されていますか。（児童保）

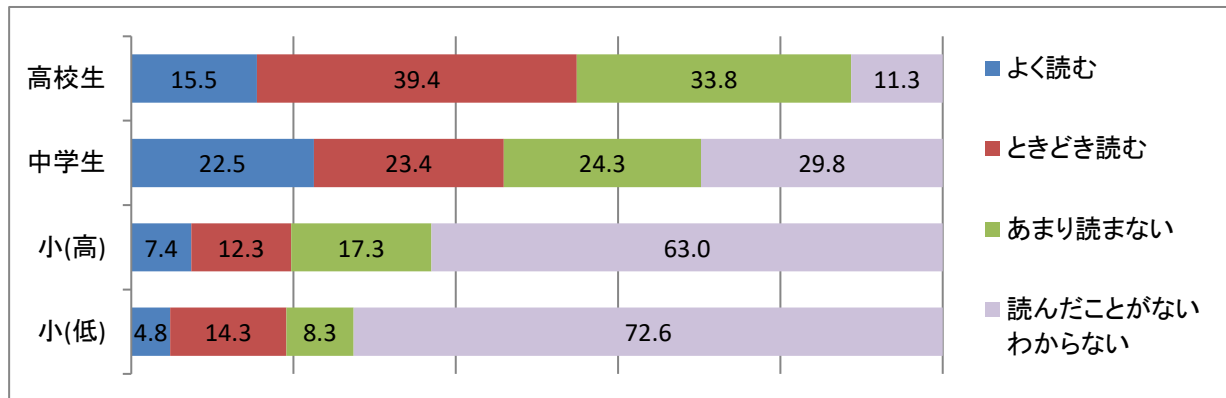
「買う」（26.3%）、「図書館で借りる」（24.2%）、「お子様が自分で選び借りてくる」（20.7%）、「お子様が自分で選ぶ」（20.2%）の順となりました。前回調査とほぼ同じ比率となっています。書店と図書館（図書室）のどちらも、本との重要な出会いの場所であると言えます。



【「その他」内容（一部）】
 <児童保護者> ・インターネットで電子書籍を読む ・古本市などの活用

1 2、タブレットやスマホ、パソコンなどを利用してインターネットで本を読んだことがありますか。（小(低)・小(高)・中学生・高校生）

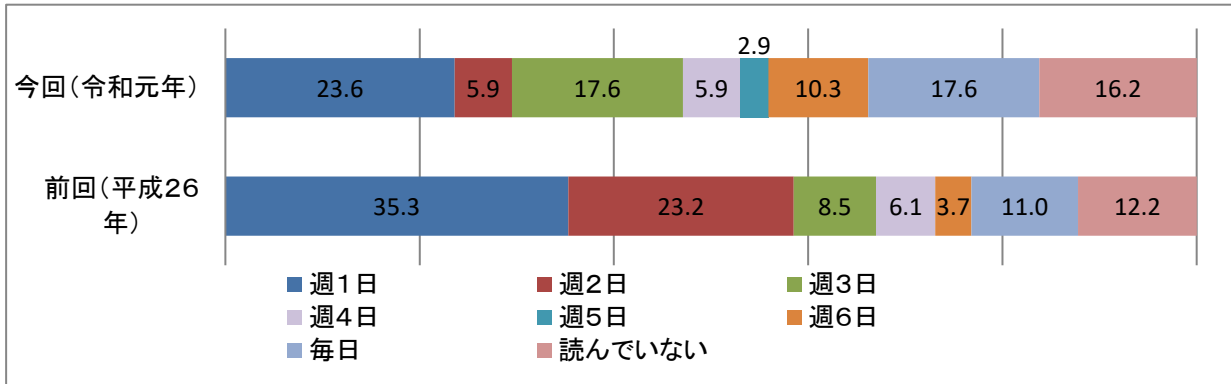
インターネットを使用する読書についての調査は、今回が初の調査となります。読んだことがあるとする回答は、学年が上がるにつれて上昇し、高校生では88.7%がインターネットで本を読んだことがあると回答しています。インターネットを使用する読書が受け入れられている理由としては、品切れがない、すぐに読めるなどの利便性の他に、タブレット端末、スマートフォン、PCの普及によりインターネットが誰にも身近なものとなったこと、町内に書店がないことなどの代替措置となっていることなどが考えられます。



13、一週間に何日くらい、お子様に本を読んであげていますか。(乳幼保)

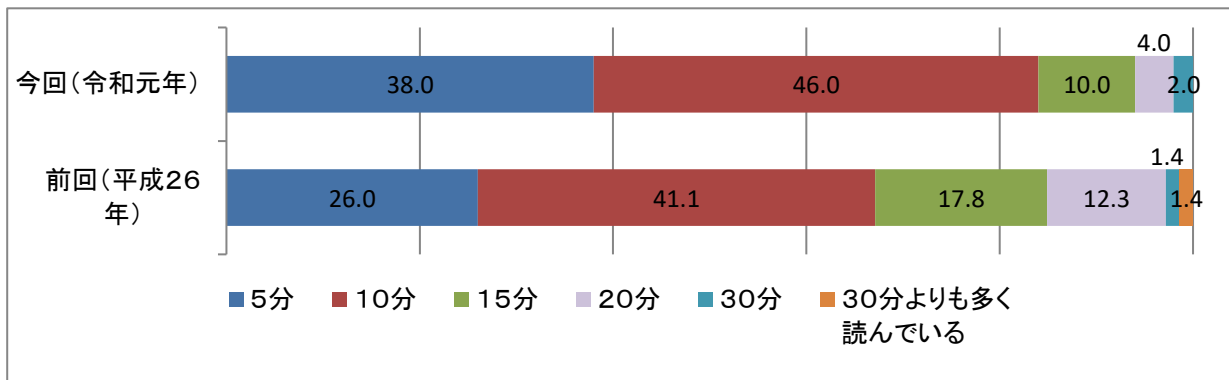
最も多かった答えは「週1日」(23.6%)、次いで「週3日」と「毎日」が各17.6%となっています。前回調査時と比べると、読み聞かせの日数が増えてきており、家庭での読み聞かせの習慣が浸透してきていることがわかります。一方、「読んでいない」と答えた乳幼児保護者は16.2%で、前回調査時の12.2%から4.0ポイント増加しています。

(読んでいない理由の詳細は設問15にて記載)



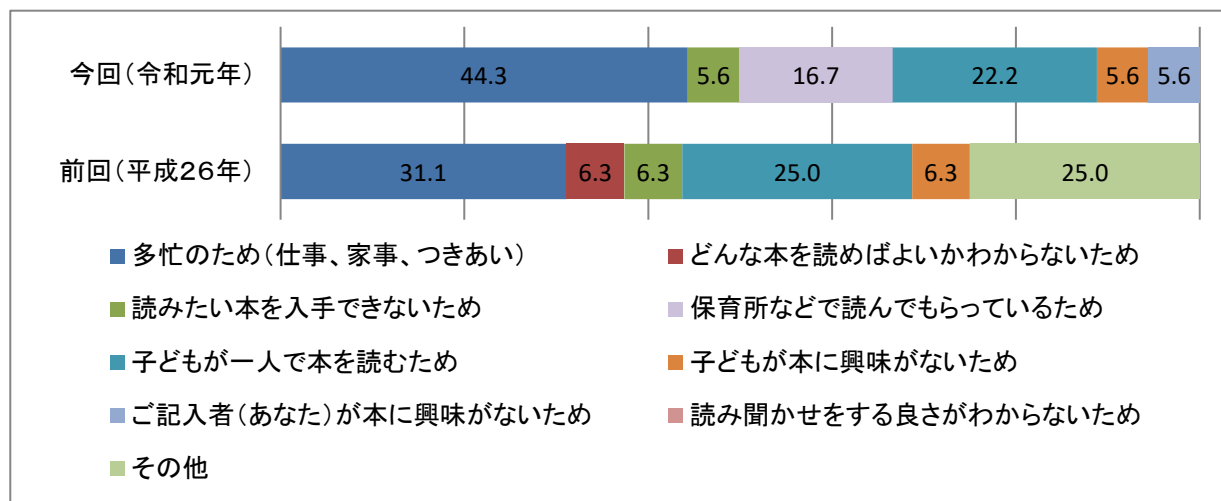
14、週〇日と答えた方へお尋ねします。一日につき何分くらい、お子様に本を読んであげていますか。(乳幼保)

「10分」と答えた人が46.0%と最も多く、以下「5分」(38.0%)、「15分」(10.0%)と続きます。前回調査時よりも一日あたりの読書時間は短くなっているように受け取れますが、乳幼児期の子どもたちの集中力を踏まえて、読書時間を短時間に設定したためと思われます。



15、読んでいないと答えた方へお尋ねします。本を読んでいない理由または出来ない理由があれば教えてください。（乳幼保）

理由として「多忙」を挙げた人が最も多く、44.3%となっており、前回調査時の31.1%と比べて13.2ポイント増加しています。また、「子どもが一人で本を読むため」とした回答も22.2%あり、読み聞かせの時間をとれない家庭が少なからずあることがわかります。

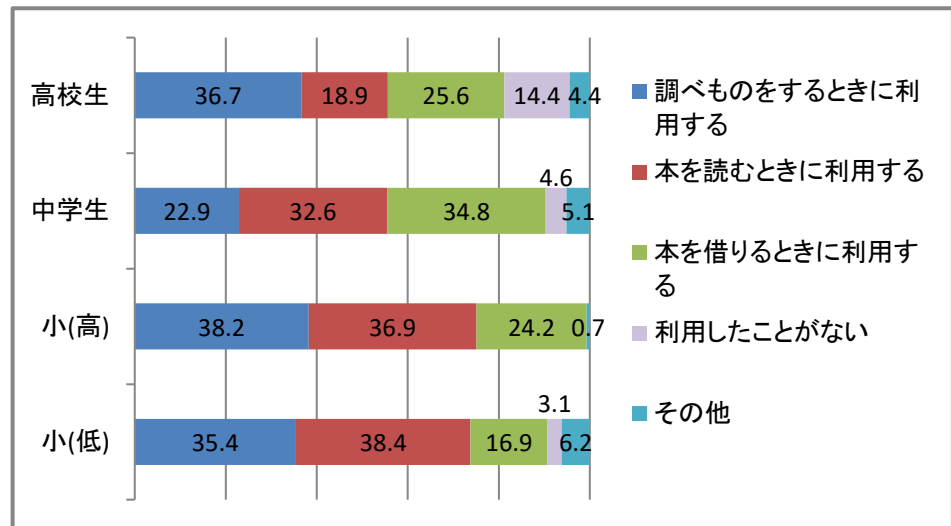


16、あなたは、学校の「図書室」や「本のコーナー」を、どんなときに利用しますか。
 (小(低)・小(高)・中学生・高校生)

学年が上がるごとに、その場で本を読み終える目的での「本を読むため」が減り、じっくり本を読む目的での「本を借りるため」が増えていきますが、高校生ではその比率がいずれも下がり、「調べものをするとき」が増えていきます。中学生までは読書の時間を取れますが、高校生では読書の時間よりも学習など調べものに時間を要する機会が増えるためと思われます。

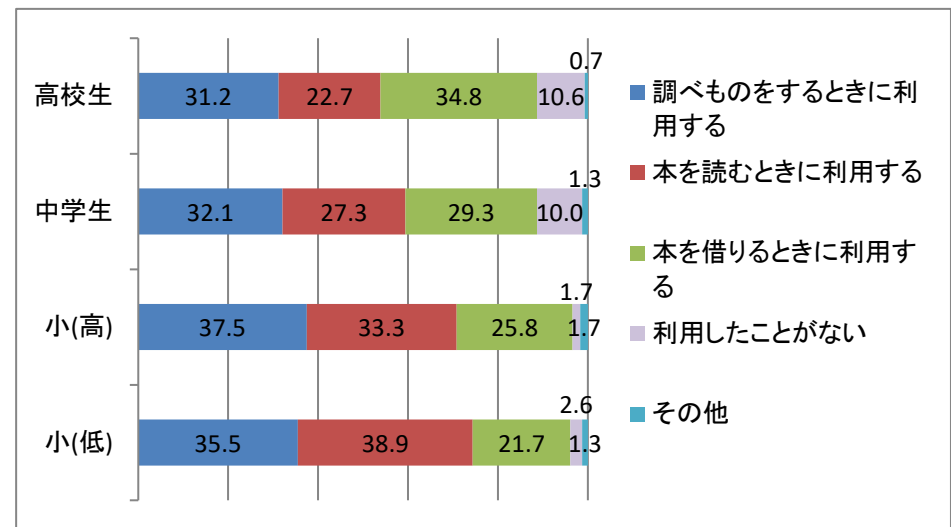
「利用したことがない」と答えた人の割合は、中学生では4.6%と前回調査時の10.0%よりも5.4ポイント減っていますが、高校生では逆に14.4%と前回調査時の10.6%よりも3.8ポイント増加しています。

今回(令和元年)



【「その他」内容(一部)】
 <小学校低学年> ・ひまなとき ・じゅぎょうにつかうときにつかう。
 <小学校高学年> ・夏休に借りる。
 <中学生> ・休み時間のひまつぶし ・委員会の貸出活動

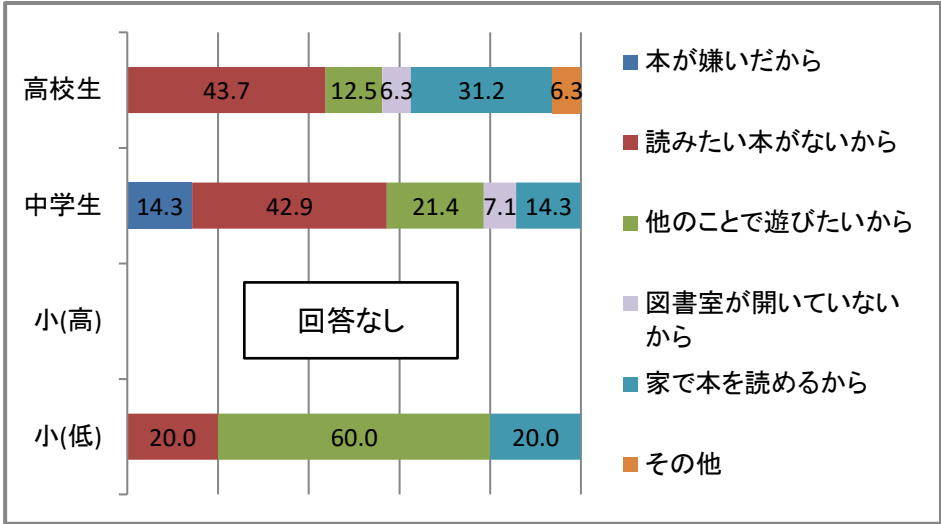
前回(平成26年)



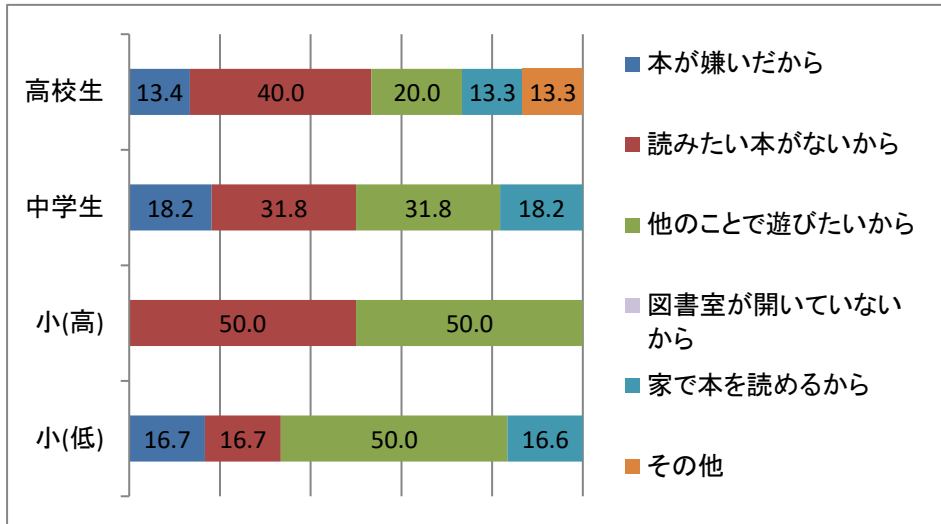
17、利用したことがないと答えた人にお聞きします。図書室を利用したことがないのはどうしてですか。（小(低)・小(高)・中学生・高校生)

最も多かった回答は、小学校低学年では「他のことで遊びたい」が60.0%でした。中学生と高校生では「読みたい本がない」がそれぞれ42.9%と43.7%で高い比率を占めています。図書室の利用を促すためには、若年層が興味をもって読みたいくなる本の整備が必要であると思われます。また、今回の調査では、小学校高学年で図書室を利用したことがないと回答した児童はいませんでした。

今回(令和元年)



前回(平成26年)



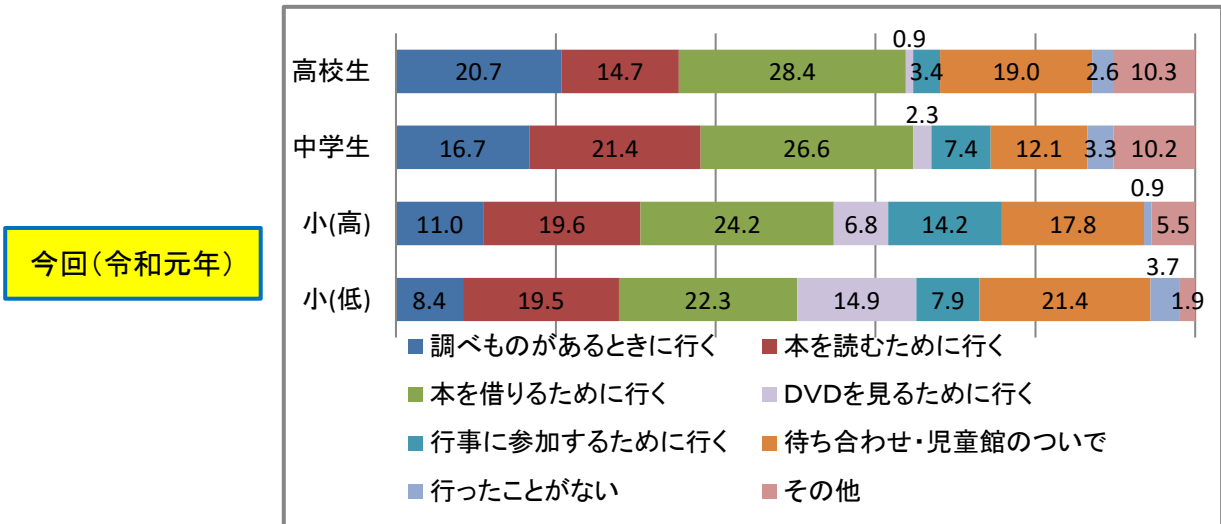
18、あなたは、町の「図書館」にどんなときに行きますか。(小(低)・小(高)・中学生・高校生)

すべての年代で「本を借りるために行く」が高い比率を占めています。(小学校低学年22.3%、小学校高学年24.2%、中学生26.6%、高校生28.4%)

また、「児童館に遊びに来たついでに行く」が小学校低学年で21.4%、小学校高学年で17.8%と高く、来館をきっかけに読書活動へつなげる工夫が求められます。

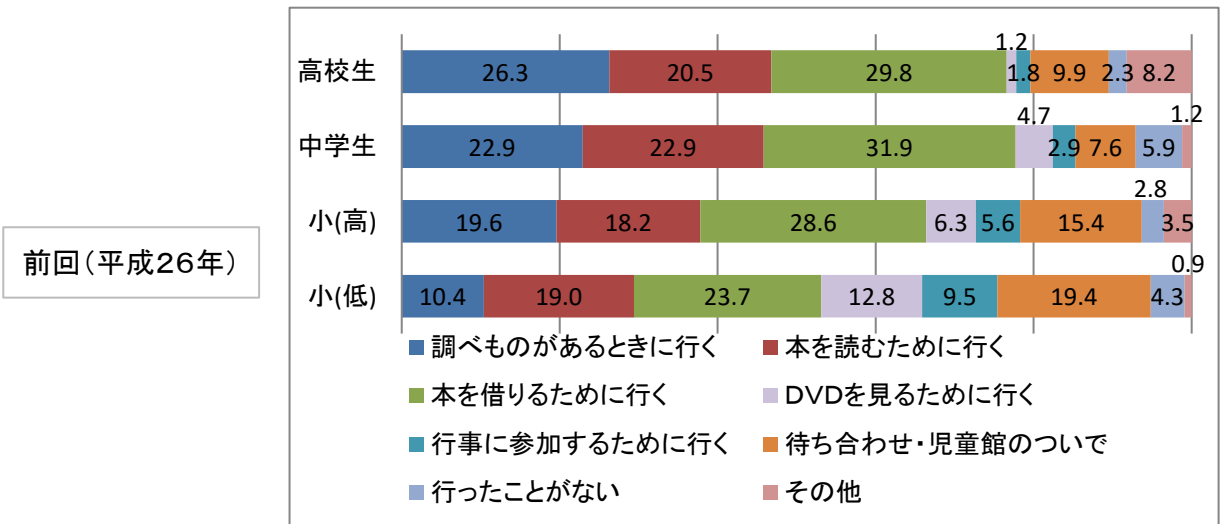
「行ったことがない」の回答も各学年で少なからずあり、小学校低学年で3.7%、小学校高学年で0.9%、中学生で3.3%、高校生で2.6%となっています。

図書館では来館を促すため様々な行事を企画していますが、「行事に参加するため」と答えた回答もまた多くはないことから、今後もより魅力的な行事が求められるものと考えます。



【「その他」内容(一部)】

- <小学校低学年> ・お母さんが行こうって言った時に行く。
- <小学校高学年> ・勉強会の場所として行く ・本をかえすために行く
- <中学生> ・インターネット ・勉強するため ・息抜きのため



※小学生と中学生・高校生で選択肢を一部変えています。

小学生：児童館に遊びに来たついで 中学生・高校生：待ち合わせに使うため

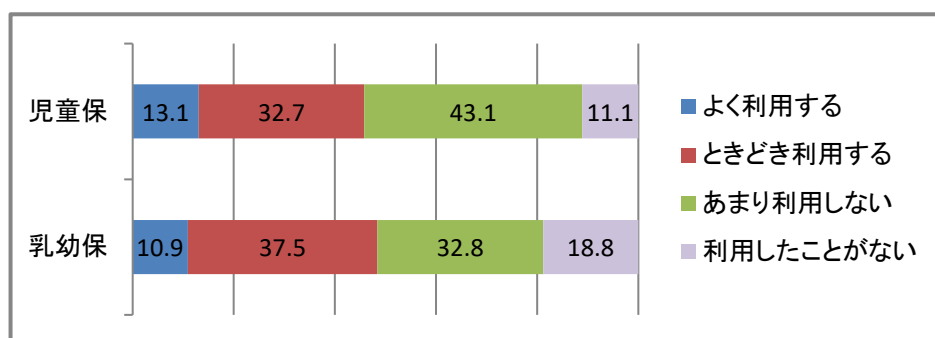
19、ご記入者（あなた）は図書館を利用していますか。（乳幼保・児童保）

保護者の世代で最も多かった回答は、乳幼児保護者が「ときどき利用する」（37.5%）と答えたのに対し、児童生徒保護者は「あまり利用しない」（43.1%）が最多の回答でした。

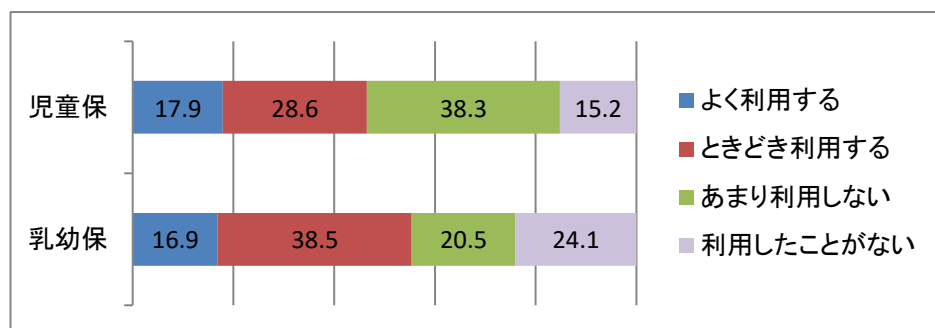
「利用したことがない」の回答は、児童生徒保護者が11.1%で前回調査時の15.2%から4.1ポイント減り、また乳幼児保護者も18.8%で前回調査時の24.1%から5.3ポイント減っていることから、図書館を利用したことがあると答えた人の割合は、全体では若干増加しています。

保護者の世代に今後も図書館を利用してもらえるよう、宣伝等の継続したきっかけ作りが求められます。

今回（令和元年）



前回（平成26年）

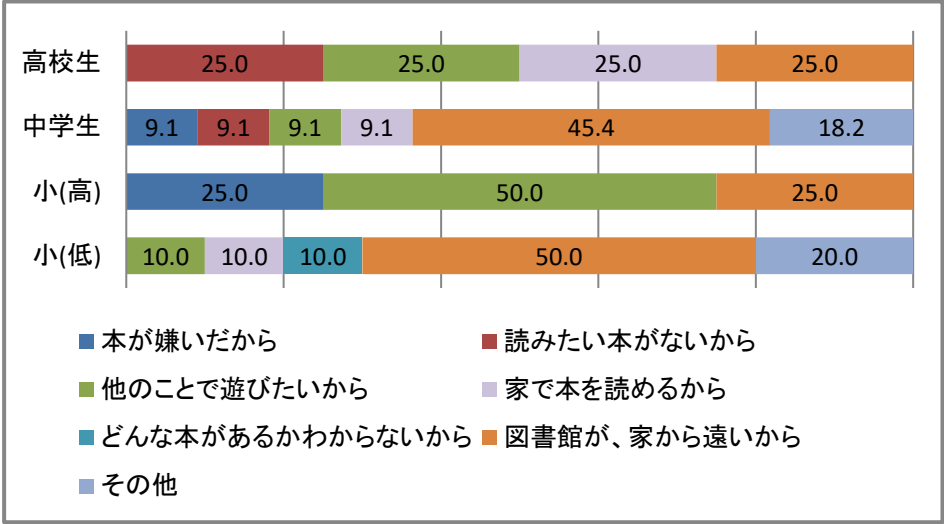


20、行ったことがないと答えた人にお聞きします。図書館に行ったことがないのは、どうしてですか。（小(低)・小(高)・中学生・高校生)

図書館に行ったことがない理由が多かったのは、「家から遠い」（小学校低学年50.0%、中学生45.4%など）でした。遠隔地の子どもたちへのサービスとして、移動図書館車あおぞら号による巡回業務や、学校文庫の入替の充実など、継続して取り組んでいく必要があります。

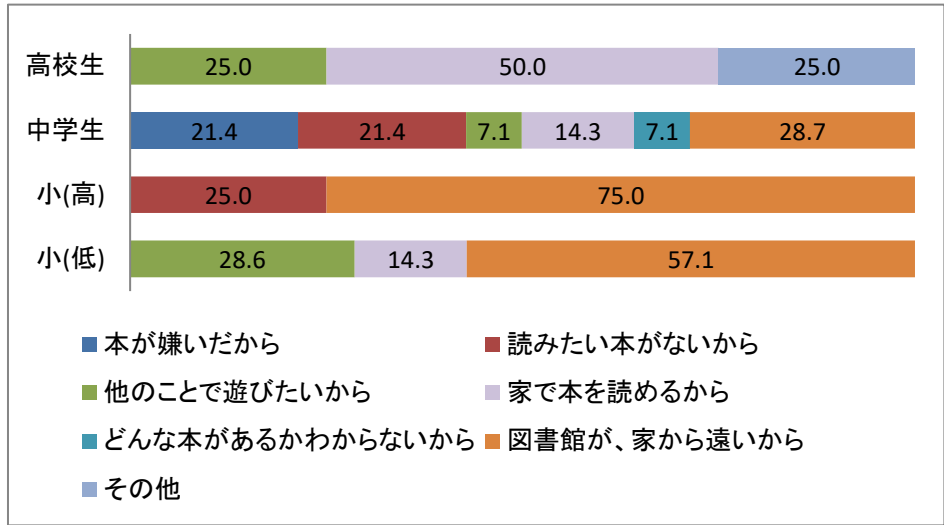
また、「他のことで遊びたい」（小学校高学年50.0%など）との回答も見受けられることから、図書館側からも各種行事や広報等を通じての、読書の意義及び図書館の魅力の発信が求められます。

今回(令和元年)



【「その他」内容（一部）】
 <小学校低学年> ・あそびたいし、いそがしいから ・きたみとかいっているから
 <中学生> ・めんどくさいから ・学校で読めるから

前回(平成26年)



2.1、読書を楽しむために、必要だと思うことはなんですか。(中学生・高校生)

共通して寄せられた意見としては、「集中力」が最も多い回答となりました。また、「自分なりの本」、「自分にあった本」といった回答も見られました。読書に集中できるよりよい読書環境と、その人にとっての素晴らしい本を見つけやすい場所・機会を提供できるよう、環境の整備が求められています。

中学生

(意見の一部)

- ・ 読んでいる本に対する感情をストーリーの中の人物で考えること
- ・ とにかく、自分の読める本を読む。
- ・ 静かにして(集中して)読書を楽しむ
- ・ しゅうちゅうりょく
- ・ 想像力
- ・ 周りが静かにするなどルールを守ってもらう
- ・ その本の内容を想像しながら読む
- ・ 自分一人だけでも、心からおもしろいとおもう自分なりの本をはっけんする。
- ・ 好きな本を読むことが必要だと思う。
- ・ 集中して読む。自分で気になった本を、読みたい時に読む。
- ・ 読書の楽しみ方がわからない
- ・ 積極的に本を読むこと。
- ・ 豊かな感性と本を読むためのととのった環境が大切だと思う。
- ・ 興味をもって読む
- ・ 読書にこれ以上もとめない。
- ・ 自分にあった本を読むこと。

高校生

(意見の一部)

- ・ 静かな環境
- ・ 本の楽しさを全面的に伝える
- ・ 集中力。どれだけ本に入れるか。
- ・ 本を読み、知識を得たという実感をする
- ・ 自分の好きな分野や好きな本を見つけること。
- ・ 静かに読める環境。面白い、興味のある本。
- ・ まずはきょう味を持つことが大切だと思う 自分の好きな分野をみつける
- ・ 本に集中したいので静かな環境があれば本を楽しめる気がする
- ・ 本の独特な世界かんに入りこむ
- ・ 自分が好きな本を読むこと
- ・ 自分が読みたい時によむこと
- ・ 理解力
- ・ 自分の好きなジャンルを見つける。
- ・ 気になるタイトルがあったら読んでみる。
おもしろければ、本の楽しさに気づくはずです。
- ・ 漢字を覚える

22、お子様が本を好きになるように、意識して取り組んでいる工夫はありますか。
(乳幼保)

「読み聞かせ」との回答が多く、子どもたちが本を好きになるよう、その読み方や本の選び方を工夫しているという具体的な様々な声が寄せられました。また、「手の届く所を本棚にする」、「図書館や本屋に一緒に行く」など、身の回りに本がある環境づくりや、本のある場所へ連れて行くなどの回答も見受けられました。

乳幼児保護者

(意見の一部)

- ・子どもが読んでほしいという本はよみきかせします。
その時は忙しくても読むことを優先するよう努力しています。
- ・定期的に図書館へ行き、自分で本を選ぶ楽しさを持てるようにしている。
- ・子が気に入ったシリーズ(作家)の絵本を購入する。
すぐ手の届く所を本棚にし、好きな時に本を読めるようにしている。
- ・おもしろそうな絵やキャラクターの絵本を読むようにしている
- ・たくさん並んでると、選びづらい様なので、いつも見る所、たまに見る所、と収納場所を分けてる。
- ・私自身読書が苦手なので、子どもにすすんで本を読むことが少ないのですが、子どもから”読んで～”と希望されれば必ず読んであげるようにしています。
また、読み聞かせの時間にも時々参加するようにしています。
そして、本を読んであげる時は私自身も楽しんで読むようにしています。
- ・身近に本を置いて、いつでも本人が読みたい時に読めるようにしている。
図書館や本屋に一緒に行く。
- ・生まれた時から大好きなので特にありません。
- ・保育所から持ってくる本(購入している本)は、持ち帰ったらすぐ一緒に読むようにはしている。これ読んでほしいと言われたら読むようにしている。
- ・本どうりに読まず、くふうして読むようにする。(しつもんしながら等)
- ・特にはありませんが、親が小説など、本を読んでいる姿を見ていたら、その内本を読む子になるのではないかな?と思いつつ、自分が本を読んでいます。
- ・夜、寝る前に必ず絵本を読んでいます。
図かんなど絵や写真で楽しめる本を読んでいます。
- ・寝る前や、テレビを観すぎの時に読むようにしている。
声を出して読んでいると近づいてきて聞いてくれる。(笑)

23、お子様が読書を楽しむために、どのような環境が必要だと思いますか。自由にご記入ください。（児童保）

多くの児童保護者から寄せられた意見として、「テレビなどの誘惑のない環境」、「雑音の無い空間」などの読書に集中できるような環境づくりについての提案がありました。他にも、「大人が本を読んでいる姿を見せる」、「親子で一緒に読書を楽しむ時間を作る」など、保護者の読書に対する姿勢を重視する意見も多く見られました。

児童保護者

(意見の一部)

- ・本を読む楽しさを知る機会（大人も子供も） 図書館の魅力を知る機会
- ・子供がいつでも本が見ることのできる環境が必要だと思います。
図書館には色々な種類の本がたくさんあるので、子どもの興味のあることに関する本を借りて、目につくところに置いています。
図書館は、たくさん本があるけれど、子供達は本を探すことが苦手なようでもったいないな…と思います。
- ・読書するための場所（読書に集中する個室）、テレビなどの誘惑のない環境が必要だと思います。
- ・大人が本を読んでいる姿を見せないと読まない気がします。
- ・たとえばですが…私事ですが、夫婦ともにマンガ（単行本）や小説（読みたいもの）好きで子供にしてみればおもちゃ同様”常にある（身近に）”です。
絵本を読むときはワザとキャラクターになりきって…と、笑わせることも必要かと。
- ・いつもゲームをしたり、動画を見たり、テレビを見たりするという環境であると読書はしないと思う。
読書を楽しむためには、ゲーム e t c の時間を制限する必要があると思う。
- ・小さい時からの読み聞かせが大切だと思います。
- ・親子で一緒に読書を楽しむ時間を作ればいいなと思います。
- ・雑音の無い空間
- ・まずは親が本を読むこと。家に本があるのが当たり前環境。
字が読めなくても小さいうちから自分で手に取れる場所に置いておく。
- ・楽しく本を読める図書館が必要だと思います。
- ・週に1～2回、ゆっくりと本を読む時間を意識的に取る。
学校の図書コーナーの定期的な本の入れ替え。
- ・ゆっくりくつろぎながら読書ができるスペースがあったらよいと思います。
今の図書館では、狭い、人目が気になる、読書に集中できる場所がありません。
- ・まず、親が読むことだと思っています。家に本（絵本、小説）があって、自由に読めるようにしておくこと。小さいうちは、手の届く場所に絵本を置いておくこと。手に取る、取りやすい環境。読み聞かせて本を好きになってくれたら、お互いに良い思い出にもなる。
- ・テレビ、スマホの無い静かな所。

24、学校の図書室や、町の図書館にしてほしいことはありますか。(小(低)・小(高)・中学生・高校生)

小学生で多かった意見は、「新しい本(漫画)を置いてほしい」というもので、定番の作品やジャンル、作者名が具体的に挙げられていました。また、中学生と高校生では「新しい本の情報を知りたい」、「おすすめ本を知りたい」など図書情報についての意見がありました。

これらの要望は、図書館と学校図書室への重要な意見として受け取り、今後も図書館職員と図書担当教諭との連携を図りながら、読書環境づくりのための情報交換を進めていく必要があると考えます。

また、図書館に対しての意見では、「もっと行事を増やしてほしい」、「宝探しを作してほしい」、「本に関しての行事を作してほしい」、「楽しくできる行事を作してほしい」など、行事についての具体的な意見が見受けられましたので、担当者間で検討を進める必要があります。

小学校低学年

(意見の一部)

- ・新しい本でよみきかせをしてほしい
- ・とびだしえほんをかりれるようにしてほしい
- ・のみものコーナーに冷たいおちゃやみずをおいてほしい。
あたらしいDVDをおいてほしい。
- ・マンガふやしてほしい。(同意見多数)
- ・DVDをたしてほしい。(とくに進げきの巨人)
- ・ライダーの本をだして。
- ・サッカーの本、こうりやく本、やわらかいす。
- ・りょうりの本をいっぱいだしてほしい。
- ・野きゅうのまんがをだしてほしい。
- ・れんあいの本をおいてください。
- ・マンガをふやしてほしい。12さいをふやしてほしい。
- ・もっとテレビをふやしてほしい。もっとくわしくおいてほしい。
- ・トムとジェリーの本をふやしてほしい。
- ・メジャー2
- ・ゲームの本
- ・としょじつに女子にかんけいする本をおいてほしい。
- ・てっけんチンミをおいてほしい。しんてっけんチンミをおいてほしい。
- ・リクエストをしたら二日いないにとり入れてほしい。
もっとぎょうじをふやしてほしい。毎日よみきかせしてほしい。
休みの日をなくしてほしい。〇〇は〇〇でまとめてほしい。
- ・ドラゴンボールのカードの本がほしい。あと、バスケのプロの本がほしい。
- ・あたらしいプリキュアのえほんをおいてほしい。
- ・おもしろくてたのしいほんをおいてほしいです。
- ・ディズニーの本をふやしてほしい。
- ・しんれいの本とか図かんをふやしてもらいたい。
- ・ハムスターの本をふやしてください。いぬの本をよみきかせしてください。
- ・よみきかせを月に3~2回ぐらいやってください。
いろいろなアニメの本の新しいものをおいてほしい。
- ・いろいろなスイーツの本をいっぱいだしてほしい。
- ・パンダのえほんをたくさんみたい。
- ・学校にもあたらしい本がほしい。(同意見多数)

(意見の一部)

- ・ぬり絵とかできるスペースをつくってほしいです。
- ・ポケモンの小説や新しいマンガを図書館においてほしいです。
- ・まんがを増やしてほしい(アニメ系)
- ・どこに何が置いてあるかをもう少し分かるようにしてほしい
- ・新しい本をおいてほしい(同意見多数)
- ・学校→グレッグのダメ日記第6だんを入れてほしい。
図書館→ヨシタケシンスケさんの本をなるべくたくさん入れてほしい。
- ・黒子のバスケのマンガと小説
- ・ドリンクコーナーのドリンクをふやしてほしい
(コーヒー、オレンジジュース、温麦茶→冷麦茶)
- ・マンガを増やしてほしい(同意見多数)
- ・れんあいのマンガをおいてほしい
- ・こわい本を沢山おいてほしいです!(同意見多数)
- ・いつも火曜日に入れかえる本だなに小説など小さくてしゅうちゅうができる本を入れてほしい!
- ・車の本をおいてほしいです。
- ・本にしているをはってほしい。「あ」から「ん」のものにわけて下にはると、もどしやすいしみつけやすい。
- ・学校で、図書コーナーじゃなくて、かりれる図書室にしてほしい。
- ・宝探しを作ってほしい
- ・みかくにんせい物の本をできればおいてほしい。
- ・かんどうする本、ベスト5をつくってほしい。
- ・本にかんしての行事を作ってほしい。
- ・どうぶつの本をふやしてほしい
- ・野球の本を置いてほしい。
- ・子どもようのオシャレやメイクの本をふやしてほしい。
- ・おすすめの本を紹介してほしい。
- ・「キミといつか」という本をおいてほしい。
- ・学校の図書室に、マンガをいっぱいおいてほしい。
- ・本の色をカラフルにしたり、本のだいいめいをおもしろくしたり、DVDつきの本を、もうちょっとふやしてほしい。
本にもうちょっと写真をのせてほしい。
- ・ふきだしのふせんの中に「おすすめ」とかいて本のたなにはるのをやってほしいです。
- ・トムとジェリの本
- ・ねこの本をおいてほしい。
- ・心理テストやアニメがみたい
- ・おすすめの本をしょうかいしてほしい(同意見多数)

中学生

(意見の一部)

- ・本をよんでほしい
- ・少女向けの本が読みたい
- ・ライトノベルを増やしてほしい
- ・恋愛ケータイ小説を増やしてほしい。新しい本が入ったらお知らせしてほしい
- ・あつまって楽しくできる行事などをつくってほしい。
- ・季節にあった本を知りたい
- ・スポーツの本を増やしてほしい
- ・もっと新しい本の情報がほしい（こんな本が入りました、など）、人気の本などを紹介してほしい。（ランキング表のていじなど）
- ・おすすめの本を紹介してほしい。
- ・ファンタジーの本を学校の図書室や町の図書館においてほしい
- ・佐呂間町についての本のコーナーを作ってほしいです。
- ・カフェとか喫茶店などを作ったらいいと思います。
- ・学校…実用書系や勉強系など情報が古いので、新しいものを入れてほしい。
毎年新刊図書を入れているが本棚も蔵書棚もいっぱいなので蔵書を整理したい。

高校生

(意見の一部)

- ・おすすめの本や情報が知りたい。
- ・今、流行している漫画などが読みたいです。
- ・本の場所がわかりにくいので、わかりやすく並べてほしい
- ・あらすじを知りたい。
- ・学習スペースを増やしてほしい
- ・小説のしゅるいをふやしてほしいです。新しい本の情報が知りたいです。
- ・いろいろなジャンルの本を置いたら良いと思った。
- ・新しい本や有名な本を紹介してほしいです。
- ・新しい本の情報が知りたいです。
- ・特になし

25、本に関することで、保育所や図書館への要望がありましたら自由にご記入ください。（乳幼保・児童保）

乳幼児保護者からは、「読み聞かせ」の実施や、「年齢別の本」の紹介などの要望がありました。読み聞かせの習慣化に当たって、家庭外での支援や読み聞かせに向けた本の情報の提供が求められていると考えます。また、若佐コミセンの図書室の活用についての意見がありました。若佐・浜佐呂間の各分館（図書室）の活用については、遠隔地の児童・生徒のために今後も検討を進める必要があります。

児童保護者からは、「マイレージポイント」、「本を読むイベント」、「ビブリオバトル」などの各種事業の提案がありました。児童・生徒が図書館に来る機会、本を読む機会を増やすよう、さらなる企画の立案が必要と思われる。

乳幼児保護者

（意見の一部）

- ・これからも、保育所ではたくさん本を読んでいただきたいと思っています。
- ・保育所に置いてある本を図書館のように貸し出しできるようにしてみたいか？先生に読んでもらっている本をお家で保護者に読んでもらうのもいいかなあ…と思います。
- ・年齢別に図書館でわかりやすくなっていると選びやすいのかなと思います。保育所で頂く本の購読希望リストはとても参考になります。
- ・年中、年長になると作る本がメインですが、絵本も一緒に購入できるとありがたい。というのも、どの本を買ってあげたらよいかかわからないし、年少の時のような絵本だけというのも欲しいなあと思う
若佐のコミセンの図書室ももうすこし使えると行く機会も増えるかな？
雨の日など！（夏休みの）
- ・ブックスタートで本をいただいたように、希望者に年1、2冊もらえるとうれしいです。
本の読み聞かせを平日や0、1歳児向けのものを定期的にやってほしいです。
- ・特に要望はありません
- ・本のオススメの年れい？がわかるようにおいてほしい。
2才で、どんな本をよめばいいかわからない。

※乳幼児保護者には保育所への要望についても質問しています。

(意見の一部)

- ・マイレージポイント参加など取組
- ・本を読むイベントや関係するイベント、図書館に行きたいと思う機会がたくさんあるとよい。
- ・季節ごとでおすすめコーナーの本が替わるので、借りやすくて良いと思います。図書館の方も一緒に本を探してくれるなどやさしいので利用しやすいです。本屋さんにあるようなおすすめ本POPがあると色々読んでみたくなると思います。
- ・小学生低学年～中学年向けの本が少ない。高学年向けはさらに少ない気がします。絵本以降の本の展示とラインナップが良くなるとうれしいです。
- ・絵本作者の方、年に2回か毎年1回は来てほしいです。親が読むのと、実際に作者の方が読むのとでは全然違うので楽しいです。
- ・医療関係の専門書も置いて頂けると有難いです。
(現在、大学や看護学校等市外の施設でしか借りられないため)
- ・小説に限らず、マンガや新聞(小学生新聞)の導入もほしい。佐呂間図書館入口入ってすぐの企画推薦図書のコーナーいつも楽しみにしています。
- ・本が多すぎて選ぶのがむずかしいのだと思います。学年毎におすすめがあると良いかとも思います。
- ・ビブリオバトルをやってほしい。先生から生徒へのおすすめ図書企画。
- ・図書館ホームページの中で年齢別に合う本の紹介をする。
- ・本に興味ができるように本の内容のしょうかいなどを学校の配る紙(プリント)などにあったらよいのでは。
- ・本の検索がわかりにくい。

第2次
佐呂間町子どもの読書活動推進計画
アンケート調査考察

佐呂間町教育委員会
(佐呂間町子どもの読書活動推進計画策定委員会)